

---

# 京都市地域・多文化交流 ネットワークサロン通信

---

発行日 2015年6月30日 編集・発行 京都市地域・多文化交流ネットワークサロン 第14号

---

## Message to The Network Salon

---



Ms. Marilou Kinomoto

I've lived in various places in Japan for more than two decades, and I would say, I like Higashi-Kujo best. I serve as a volunteer interpreter for the children with Filipino background, and I recall that my feeling for the previous volunteer work in other places was not as strong as it is now. I think my life in Higashi-Kujo helped me to nurture the passion for volunteer work.

I got tons of untoward experiences in Higashi-Kujo... but I never hated this place. On a street in Higashi-Kujo you'll meet an old man drinking beer while preparing *samma* (pacific saury) over *shichirin* (charcoal stove) for his dinner, a lady crushing empty cans under cherry trees, or a lady who is always fuming at something. Some people bring troubles in their neighborhood and that's not very good, but I am also amused by their very human behavior. These familiar street scenes in Higashi-Kujo always make me feel a sense of relief. People here openly express their unique personality and only among them, I can also be myself, feeling comfortable and relaxed. My other favorite sights include laundry and shoes hanged on a clothesline over Takase River, and *horumon-ya* or small restaurants specialized for broiled innards.

I am so thankful to be able to assist the children with Filipino background. I am also very happy that I met this Network Salon and made many good friends. I wish my fellow Filipinos to become better acquainted with the friendly staff of the Network Salon. I am currently a member of a guitar group (registered to the Network Salon) called JAPINONG SESSIONISTA. The membership is not limited to Filipino, so we invite you all to join us to play and sing with guitar. Or come and enjoy our music: we perform at various events of the Network Salon!

(Marilou Kinomoto ※日本語版は本号8頁に掲載しています)

## 第4回 東九条春まつりが開催されました！



今年で4回目となる東九条春まつり



華やかな「子どもたちのステージ」

4月18日(土)、京都市地域・多文化交流ネットワークセンターにおいて、今年も「出会って、食べて、多文化体験 ～東九条にお・い・で！」をテーマに掲げる「京都市地域・多文化交流フェスティバル 東九条春まつり」が開催されました。2012年にはじまったこの東九条春まつりも、今年で4回目です。

東九条春まつりは京都市地域・多文化交流ネットワークサロンの登録団体の皆さんが委員となる実行委員会によって主催・運営されています。実行委員会は昨年12月に組織されて以来、春まつりの直前まで7回にわたって開催され、矢吹文敏委員長(日本自立生活センター)の下でそれぞれの団体が地域交流や多文化共生をめざして持ち寄った様々なアイデアを、ひとつひとつ形にしていきました。

当日は昨年、一昨年に引き続いて好天にも恵まれ、東九条地域はもち

ろん、京都市内外より多くの方々にご来場いただきました。

春まつりのステージではオープニングを飾る京都文芸同(登録団体)による朝鮮舞踊、東九条マダン(登録団体)によるブンムルと続き、屋外ステージでは JAPINONG SESSIONISTA(登録団体)の皆さんによる歌とギター演奏が盛り上がりました。午後からは「子どもたちのステージ」として、サムルのたまご、京都国際学園の舞踊部、京都朝鮮初級学校のカヤグム部が、それぞれ素晴らしいパフォーマンスを披露し、さらに、出演者が一体となって「It's a small world / 小さな世界」を様々な言語で歌うという初めての試みもありました。後半は「高齢者のステージ」として、故郷の家・京都(登録団体)や東九条のぞみの園(登録団体)の利用者の皆さんがフラダンスや音楽療法のステージを披露され、ステージと客席が一体となって盛り上がりま



した。また、合間には昨年好評を博した京都テルサのフィットネスクラブのスタッフによるストレッチ教室も行われました。

文化祭・写真展のコーナーでは、オモニハッキョ・ケナリ、京都コリアン生活センターエルファ、故郷の家・京都、陶化老人デイ、希望の家カトリック保育園、東九条のぞみの園、地域福祉センター希望の家の各登録団体がそれぞれ趣向を凝らした展示を行ったほか、京都へ避難・移住した東日本大震災の被災者のネットワークである「みんなの手」も、写真や活動紹介を展示されました。また、「地図と暦から見る多文化」と題する登録団体共同展示では、世界各国のカレンダーや様々な形式の地図が展示され、多くの人が知らず知らずのうちに前提にしている文化が決して「当たり前」のものではないことに気づくことができるよう工夫されていました。

恒例の「映像の部屋」では、今年も東九条地域を取り上げたドキュメンタリーを取り上げたほか、ヘイトスピーチ問題に関する映像の上映と、ヘイトスピーチ被害の支援にあたってこられた佐藤大さんのミニ講演会も開催されました。

屋内外に設置された出店や体験コーナーも、登録団体や関係するグループ等が地域交流や多文化共生をコンセプトに据えつつ、内容に趣向を凝らすことで、他のおまつりとはひと味もふた味も違う、多彩なものとなっていました。

今年も、参加者のひとりひとりが主役になって国籍や民族、世代、性別、障害の有無などを乗り越える、新たな出会いと交流の機会とすることができました。



たくさんの来場者で賑わう



多彩な出店での多文化体験

出合っ、食っ、多文化体験～東九条にお・い・で！

京都市地域・多文化交流フェスティバル

**第4回 東九条**

Spring Festival

春天节 Piyesta ng Spring

봄 놀이

**春**

**ま**

**つ**

**り**

2015年**4月18日** (土)

**10時～15時**

写真展・作品展は4月13日～4月24日の期間に開催します。  
(0900～1700、日曜日休館)

ところ：京都市地域・多文化交流ネットワークセンター

主催：京都市地域・多文化交流ネットワークサロン

□住所：京都市東九条東九条駅前31  
□電話：075-671-0108 FAX：075-691-7471  
□HP：http://www011.isapp.co-net.ne.jp/salon/  
□E-mail：salon\_kyoto@ck9.so-net.ne.jp

**当日ボランティア大募集！**  
会場整理、案内、販売の手伝いなど  
詳しくはお問い合わせください！

第4回東九条春まつりのチラシ

## 2015年度第1回ボランティア講座

## 第1回卓球バレー大会



大勢の方が参加された第1回卓球バレー大会

6月17日(水)、京都市地域・多文化交流ネットワークサロンの2015年度第1回ボランティア講座として、「第1回卓球バレー大会」を開催しました。ネットワークサロン近隣の登録団体をお誘いしたところ、故郷の家・京都、東九条のぞみの園、ワークス共同作業所、地域福祉センター希望の家より、総勢46名が集まりました。

卓球バレーというのは、卓球台を6人対6人の計12人で囲み、ピンポン球を板で打って台とネットの5センチくらいの隙間を通すゲームです。ルールはバレーボールとよく似ていますが、みんなが座ってプレーするので、高齢者や障害者などいろんな人と一緒に楽しむことができる、ととてもうれしいスポーツです。しかし、力のコントロールと素早い動き、そして、チームワークも必要です。遠慮していると、二人の間をピンポン球が転がっていくので、声をかけ合います。点が入るとうれしくて、ワーワーと大きな声になってしまいます。失敗すると、悔しかったり、笑ったり、どちらにしても大騒ぎしてしまいました。

1時間半くらいの短い時間でしたが、あっという間で、楽しくって、にこにこしている間に終わってしまいました。皆さんに感想を聞くと、「楽しかったです」「またしたいです」と言って頂きました。企画したこちらもとても楽しくできたので、第2回も開催したいなと思っています。今回参加できなかった方々も是非ご参加ください。お待ちしております。汗をかいて、大声で笑いましょう。

次の日、地域福祉センター希望の家の利用者さんは「筋肉痛になった」と湿布を貼られていましたが、参加されなかった方に、楽しかったことを話され、お腹の底から笑ったと喜ばれていました。



皆が汗をかいて、大声で笑いました



2015年度 第1回料理教室「外国籍市民の方々と学ぶ日本のお弁当」

## Let's make Obento and eat together!!

6月13日(土)、昨年度までご好評いただいていた「世界の料理教室」に代わり、お弁当文化のない国から日本に来て生活をされている方々にお弁当を知っていただくための料理教室を開催しました。講師には、東九条地域で生れ育ち、現在も地域で子育てをしている、大関茜さんと、長谷川ゆいさんに来ていただきました。今回の参加者はフィリピン女性3名と子どもさん1名。木之本マリルさん(本号1頁・8頁参照)には通訳として参加していただきました。

大関さんはキャラ弁(おにぎりなどをキャラクターに見立てて細工したもの)が得意なママで、この日は、「アンパンマン」や「ベイマックス」のおにぎりを教えてくれました。その



初めてのたまご焼きに挑戦

他にも、ほうれん草のおひたし、ウインナーの飾り切り、アスパラのベーコン巻、はんぺん揚げ…など、栄養バランスが良くて簡単なおかずが、あっという間にできあがりしました。中でも参加者のみなさんが奮闘しながらも楽しんでいたのは、たまご焼き。くるくる巻きながら、たまご焼き器で作るのは初体験だったようです。「講師やスタッフの分も!!」と、繰り返し作るごとに、みなさん腕をあげていきました。ハート型に切って、愛情たっぷりのたまご焼になりました。お弁当箱への詰め方もアドバイスいただき、それぞれ子どもさんが喜びそうなかわいいお弁当ができあがりしました。フィリピンにはお弁当文化がないだけでなく、ご飯をにぎることもないそうです(フィリピンではタイ米を使うためパラパラしている)。

「もう一回、開催してほしい!!」という声に、第2回目を検討中です。実現したら、次回はまだ少し広く呼びかけたいと思っています。特に、日本に来て間もないお母さんたちには、ぜひ参加していただき、日本での先輩ママとの交流の場にもしていただきたいと思っています。みなさんのお近くにいらっしゃる方を、ぜひ、ご紹介ください。



講師の大関茜さん(右端)

他の、ほうれん草のおひたし、ウインナーの飾り切り、アスパラのベーコン巻、はんぺん揚げ…など、栄養バランスが良くて簡単なおかずが、あっという間にできあがりしました。中でも参加者のみなさんが奮闘しながらも楽しんでいたのは、たまご焼き。くるくる巻きながら、たまご焼き器で作るのは初体験だったようです。「講師やスタッフの分も!!」と、繰り返し作るごとに、みなさん腕をあげていきました。ハート型に切って、愛情たっぷりのたまご焼になりました。お弁当箱への詰め方も



かわいいお弁当が完成

## 東九条のぞみの園 × のぞみの園ボランティア 東日本大震災被災地研修旅行

5月26日(火)から3日間、東九条のぞみの園(登録団体)の創立20周年を記念した東日本大震災被災地研修旅行が実施されました。宮城県石巻市、福島県南相馬市をまわり、東日本大震災による津波と福島第一原発事故の被害の実態を学んだ参加者の方に感想を寄せていただきました。



石巻市立大川小学校の校舎

ボランティア研修旅行に参加して、石巻と南相馬で被災4年を経た現実を見た。地面の嵩上げの台形の土盛りがポツンとあるだけの広大な空地。表土を剥がして詰めた黒いゴミ袋が並ぶ荒れた田圃。目に映る情景と映像で見た津波の光景、更に思い出の田園風景が重なって頭も心も混乱している。東北への想いは深い、未だ文章化できそうもない。小さな感想を一つ二つ記して報告とさせて頂く。

### ○石巻市立大川小学校(宮城県石巻市)

ステキな可愛い学校だったんだね。地域の自慢だったんだね。そこで、こんな…怖かったろうね。悔しかったろうね。悲しいね。こんな時、本当は黙って泣いていたいよね。だけど君は、死にたくなかった友達に替わって話した。校舎を残してくださいって。校舎は残った。そして君は強くなった。津波の語り部になるんだって。語ることで故郷喪失の不安を乗り越え、故郷が回復される。その時、校舎は役目を終える。慰霊碑と物語を残して。大津波の物語と共に君達の物語も語り継がれていくだろう。

### ○原町さゆり幼稚園(福島県南相馬市)

表土を埋めて人工芝を張った園庭に元気な声が弾ける。でも、どこからか微かな声が…“ゾウさん ゾウさん おはながながいのね そうよ かあさんも ながいのよ”、“ゾウさんのすべり台、大好き! 長いお鼻をすべったら、お空にとんでけそ!”ゾウさんのすべり台は、お庭の隅っこで、悲しそうに聞いていました。あゝ、砂場が建物の中に…言葉もなく立ちつくす。こんな現実を子ども達に与えてしまった大人のひとりとして。



幼稚園の屋内に設けられた砂場

(田花 安子 のぞみの園ボランティア)

〈シリーズ〉登録団体との連携・紹介 (14)

## 京都外国人高齢者・障害者生活支援ネットワーク・モア (京都モアネット)

在日コリアンの支援を通して出会おう ～外国人福祉委員活動

京都モアネットは、2006年、在日コリアン高齢者・障害者の無年金(国民年金・障害年金)問題がきっかけで始まった事業です。無年金の在日コリアン高齢者や障害者は、京都市から「給付金」をもらえることになりましたが、自宅に届いた手続き書類の意味が分からず、多くの該当者が手続きをしていないことが分かりました。文字の読み書きができなかったり、複雑な手続きが苦手な在日コリアンたちにも必要な情報やサービスがいきわたるように、私たちが京都市から助成金を受けて、研修を受けた「外国人福祉委員」を派遣したり、支援のためのネットワークを作ったのが、京都モアネットの活動の始まりでした。

京都市は外国籍住民が2%、その中で在日コリアンの割合は6割。市内でも地域によってさまざまですが、多い地域(学区や町内)では外国籍が2～5割でその殆どがコリアンというところもあります。

コリアンに関して言えば、今は1世、2世が80～90歳台と高齢化しており、生きてきた歴史や継承してきた文化を理解している人たちが、傾聴し、見守りをするのがとても大切になっています。

ところで、最近、「外国人福祉委員」活動に加えて新しく取り入れたのが、劇による啓発活動です。介護保険が始まりさまざまなサービスが展開される中で、背景の違うコリアン高齢者が、デイサービスで自分の知らない日本の歌や遊びを勧められて辛かったこと、初めて来てくれたヘルパーに、いつもの来客のようにビールや食事を勧めて、ヘルパーに困られたことなど、文化や想いの違いがあることを知ってもらおうと、昨年からはじめました。

「在日外国人問題」というと、よく知らない日本人は、なんだか難しい話だなあと感じてしまうかもしれませんが、身近には見た目では分からない、「ちがう文化や背景」を持った外国にルーツがある人たちは案外いるものです。そんな人たちに出会い、その人が自分らしく生きることのお手伝いをしながら交流できる「外国人福祉委員」活動に、あなたも参加してみませんか? (村木 美都子 京都モアネット)



劇の一場面。デイサービスの雰囲気になじめないヘルパーの思いを理解せず日本の遊びを勧める職員



外国人福祉委員の活動のひとつコマ



# ネットワークサロンへのメッセージ

日本での生活を始めて、20年以上経ちます。いろんな地域で生活してきましたが、東九条が一番好きです。

現在、フィリピンにルーツを持つ子どもたちのために通訳ボランティアをしています。他の地域に住んでいる時、ボランティアへの気持ちは、今ほど強くありませんでした。東九条で生活することで、ボランティアワークを深める気持ちになれたように思います。



JAPINONG SESSIONISTA の演奏（東九条春まつりにて）

東九条でのいやな経験は山ほどありました。でも、東九条を嫌いになったことはありません。東九条の道を通ると、夕方に七輪でサンマを焼いてビールを飲んでいるおっちゃんや、桜の木の下で缶をつぶしているおばちゃん、いつも怒っているおばちゃん…中には迷惑をかけている人もいますし、それはよくないけれど、人間らしくておもしろいと思います。東九条に慣れているから、その道を通るとホッとします。個性を出している人たちの中だからこそ、私も自然体を出しやすく落ち着きます。高瀬川にロープを張って洗濯物や靴を干している風景、ホルモン屋さんの風景なんかも好きです。

フィリピンにルーツをもつ子どもたちの支援ができることは、とても幸せです。ネットワークサロンに出会えたこと、友だちがいっぱいできたことも、とてもうれしいです。フィリピン人の仲間にも、ネットワークサロンのスタッフと、もっと仲良くなりたいと思います。今、JAPINONG SESSIONISTA（ネットワークサロンの登録団体）というギターグループを作って参加しています。フィリピン人だけでなく、ギターを弾いて、一緒に歌ってくれる方、大歓迎です。ネットワークサロンのイベントなどに出演するので、ぜひ、聴きにきてくださいね。

（木之本 マリル）

- 所在地：〒601-8006 京都市南区東九条東岩本町 31（京都市地域・多文化交流ネットワークセンター内）
- TEL: 075-671-0108    FAX: 075-691-7471    E-Mail: salon\_kyoto@ck9.so-net.ne.jp
- 開館時間：9時～17時    WEB サイト: <http://k-tabunka.com>
- JR 京都駅・京阪東福寺駅・市営地下鉄九条駅 徒歩 15 分  
京都市バス 42・202・207・208 系統 九条河原町下車 徒歩 10 分